
田上町学校施設等長寿命化計画
【令和 7 年度～令和 16 年度】

令和 7 年 3 月

田上町教育委員会

目次

1	学校施設等の長寿命化計画の背景・目的	1
(1)	背景	1
(2)	目的	1
(3)	計画期間	2
2	計画の対象	2
(1)	対象施設	2
(2)	対象施設の運営状況等の実態	3
(3)	学校施設等の老朽化状況の実態	5
3	基本的な方針等	8
(1)	長寿命化の基本方針	8
(2)	目標使用年数及び改修周期の設定	8
4	長寿命化の実施計画	8
5	将来コストの算出結果とコスト縮減効果	10
(1)	従来型の維持・更新コスト	11
(2)	長寿命化型の維持・更新コスト	11
(3)	補助事業の活用	12
6	今後の維持管理・更新に係る対応	12
(1)	地域の状況に応じた多面的な施設の活用	12
(2)	戦略的な改修・更新による維持管理・更新コストの平準化	12
7	フォローアップ	13

1 学校施設等の長寿命化計画の背景・目的

(1) 背景

田上町の学校教育関連施設の保有状況は、小学校2校、中学校1校を有しており、校舎や屋内運動場（体育館）等の施設については、火災で焼失した田上中学校の建て替えを昭和55年度に実施し、昭和56年度に羽生田小学校、昭和58年度に田上小学校が木造校舎から非木造校舎へ建て替えられました。その他保有施設としては、昭和54年度に建設された学校給食共同調理場のほか、田上小学校及び羽生田小学校の教員住宅を有しております。

いずれの施設においても、建設から年数を経過したことに伴う老朽化が進み、機能維持による改修等に当たっては多額の費用を要することが予想され、同時に近年の物価高騰による事業費の上振れについても影響が懸念されるところです。

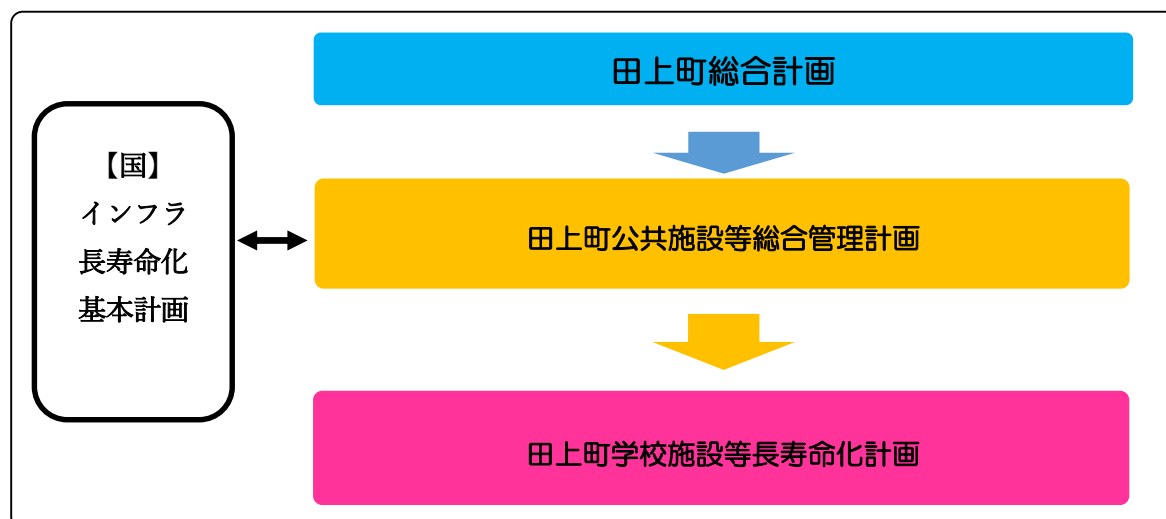
今後、多くの教育関連施設の改修や改築などが控える中、教育施設以外にも財政需要を抱える町財政への影響も十分考慮する必要があるとあり、令和3年3月に策定した「田上町学校施設長寿命化計画」にその他施設を加え、後年度の事業費平準化を図りながら機能維持やトータルコストの削減に努め、施設の長寿命化を図るとともに、時代のニーズに合わせた施設の在り方についても検討していく必要があります。

(2) 目的

田上町学校施設等長寿命化計画（以下、「本計画」という。）は、上記の背景を踏まえ、保有する学校施設等をこれまでの老朽改修から、人口減少を見据えた中で施設の在り方についても考慮し、より長期間使用していくための長寿命化改修を中心に、方針や計画を検討し改修等を進めていくことを目的として策定します。

<計画の位置付け>

田上町公共施設等総合管理計画（平成28年3月作成、令和6年3月改定）を上位計画とし、学校施設等を対象に具体的な管理計画を定めます。



(3) 計画期間

計画期間は、令和7年度から令和16年度までの10年間を計画期間とします。但し、本計画における維持・将来コストの算出期間は40年間とします。

また、計画期間内においては、施設の運営方法や劣化の進行状況等の実態を継続的に把握し、概ね5年ごとに見直すこととします。

2 計画の対象

(1) 対象施設

本計画における対象施設は、教育委員会が所管する建築系公共施設6施設、32棟(22,917㎡)を対象とします。

対象施設のうち、建築物の保有状況は、小学校2校、中学校1校、学校給食施設1施設、教員住宅2施設です。

対象施設一覧

施設名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数
					西暦	和暦	
田上小学校	校舎	RC	2	1,322	1983	S58	41
田上小学校	校舎	RC	3	3,446	1983	S58	41
田上小学校	給食棟	RC	1	491	1982	S57	42
田上小学校	渡り廊下	RC	1	58	1983	S58	41
田上小学校	渡り廊下	RC	1	77	1983	S58	41
田上小学校	渡り廊下	RC	1	54	1983	S58	41
田上小学校	屋内運動場	S	2	1,454	1983	S58	41
田上小学校	プール専用付属室	RC	1	24	1984	S59	40
羽生田小学校	校舎	RC	3	2,136	1981	S56	43
羽生田小学校	校舎	RC	3	2,666	1981	S56	43
羽生田小学校	給食棟	S	1	787	1986	S61	38
羽生田小学校	屋内運動場	S	2	1,309	1981	S56	43
羽生田小学校	プール専用付属室	S	1	83	1982	S57	42
田上中学校	校舎	RC	3	1,684	1980	S55	44
田上中学校	校舎	RC	3	668	1980	S55	44
田上中学校	校舎	RC	3	1,299	1980	S55	44
田上中学校	校舎	RC	2	813	1980	S55	44
田上中学校	校舎	RC	3	438	1984	S59	40
田上中学校	校舎	S	1	62	1985	S60	39
田上中学校	校舎	RC	2	150	1990	H2	34
田上中学校	渡り廊下	RC	1	25	1985	S60	39
田上中学校	渡り廊下	S	1	50	1985	S60	39
田上中学校	屋内運動場	S	2	2,068	1985	S60	39
田上中学校	クラブハウス	RC	2	221	1985	S60	39

施設名	建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年度		築年数
					西暦	和暦	
田上中学校	武道場	S	1	448	2009	H21	15
田上中学校	プール専用付属室	S	1	46	1970	S45	54
田上中学校	プール専用付属室	S	1	46	1970	S45	54
学校給食共同調理場	調理場	RC	1	400	1979	S54	45
田上小教員住宅	教員住宅	W	1	127	1992	H4	32
羽生田小教員住宅	教員住宅	W	2	323	1990	H2	34
羽生田小教員住宅	教員住宅車庫	S	1	71	1990	H2	34
羽生田小教員住宅	教員住宅車庫	S	1	71	1990	H2	34

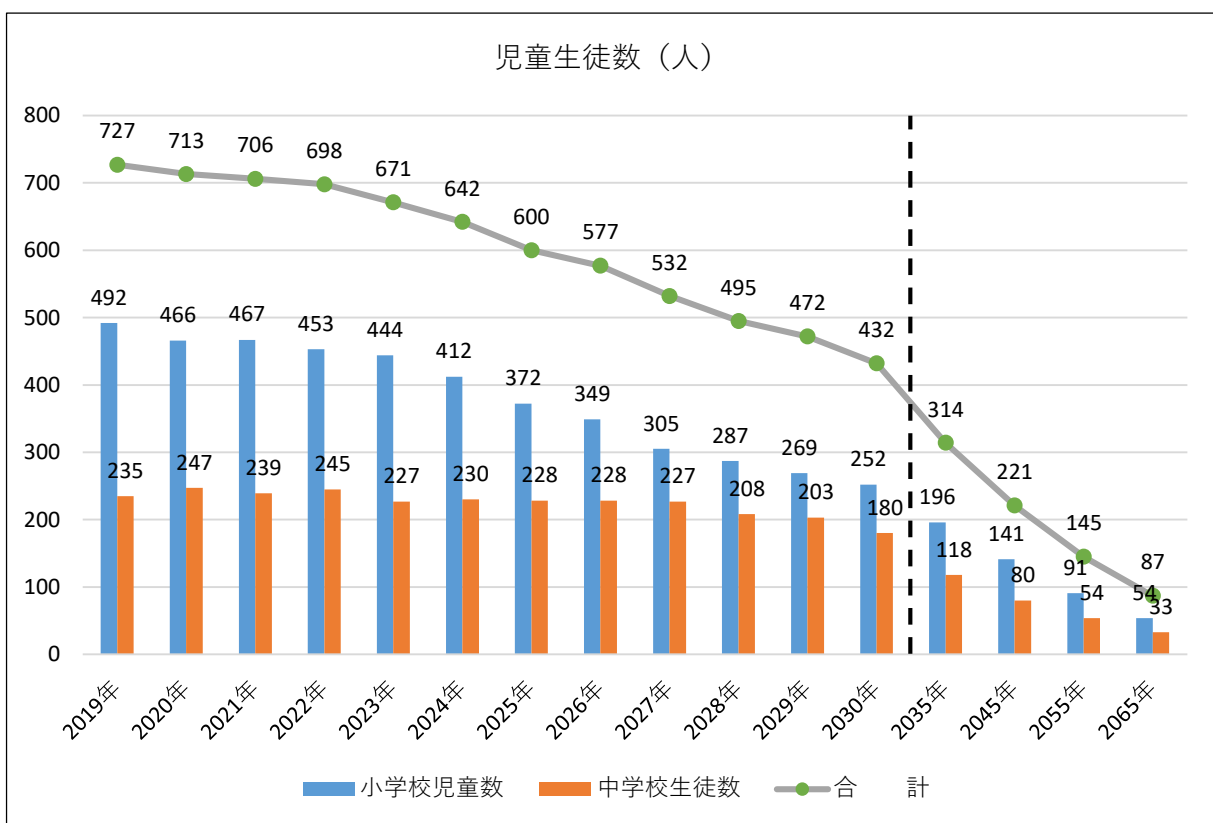
（２）対象施設の運営状況等の実態

① 児童生徒数（各年５月１日現在）

（人）

西 暦	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2035	2045	2055	2065
和 暦	R 元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 17	R 27	R 37	R 47
小学校児童数	492	466	467	453	444	412	372	349	305	287	269	252	196	141	91	54
中学校生徒数	235	247	239	245	227	230	228	228	227	208	203	180	118	80	54	33
合 計	727	713	706	698	671	642	600	577	532	495	472	432	314	221	145	87
前年比	△13	△14	△7	△8	△27	△29	△42	△23	△45	△37	△23	△40				

※ 2025 年（R 7 年）以降は推計値



② 学級数

西 暦		2019	2020	2021	2022	2023	2024
和 暦		R 元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
小学校	学級数	26	28	28	25	24	22
	うち特別支援	7	8	8	7	7	6
中学校	学級数	12	13	11	11	10	11
	うち特別支援	3	4	3	3	3	4

【小学校】

小学校の児童数は、令和 6 年 5 月 1 日現在で 412 人、22 学級（特別支援 6 学級を含む。）です。令和元年と比較し、80 人（16.26％）の減少となっています。

また、令和 7 年の推計値では、令和元年と比較し、120 人（24.39％）減少し、372 人となる見込みです。

【中学校】

中学校の生徒数は、令和 6 年 5 月 1 日現在で 230 人、11 学級（特別支援 4 学級を含む。）です。令和元年と比較し、5 人（2.12％）の減少となっています。

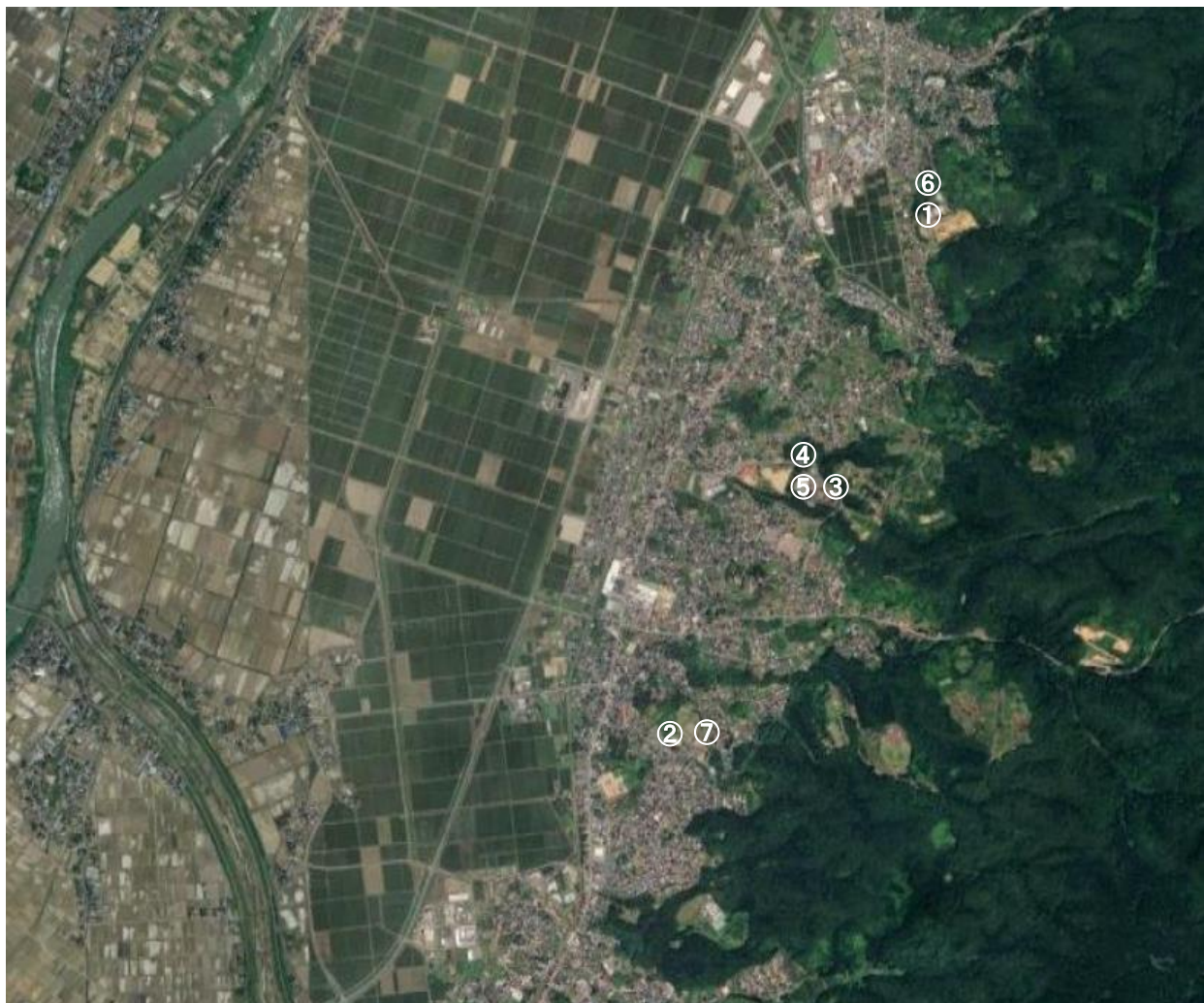
また、令和 7 年の推計値では、令和元年と比較し、7 人（2.97％）減少し、228 人となる見込みです。

③ 教員住宅入居者数

西 暦	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
和 暦	R 元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
田上小学校教員住宅	0	0	0	0	0	0	0
羽生田小学校教員住宅	4	5	3	3	2	1	18
合 計	4	5	3	3	2	1	18

田上小学校教員住宅は、令和元年以降、入居者はいません。羽生田小学校教員住宅は、令和 6 年で 1 件です。令和元年と比較し、3 件（75％）の減少となっています。

対象施設分布図



- ① 田上小学校 ② 羽生田小学校 ③ 田上中学校 ④ 田上中学校武道場
⑤ 学校給食共同調理場 ⑥ 田上小教員住宅 ⑦ 羽生田小教員住宅

(3) 学校施設等の老朽化状況の実態

劣化状況評価は、本計画の対象建築物に対し、「構造躯体の健全性」と「構造躯体以外の劣化状況」の2つに分けて把握・評価します。

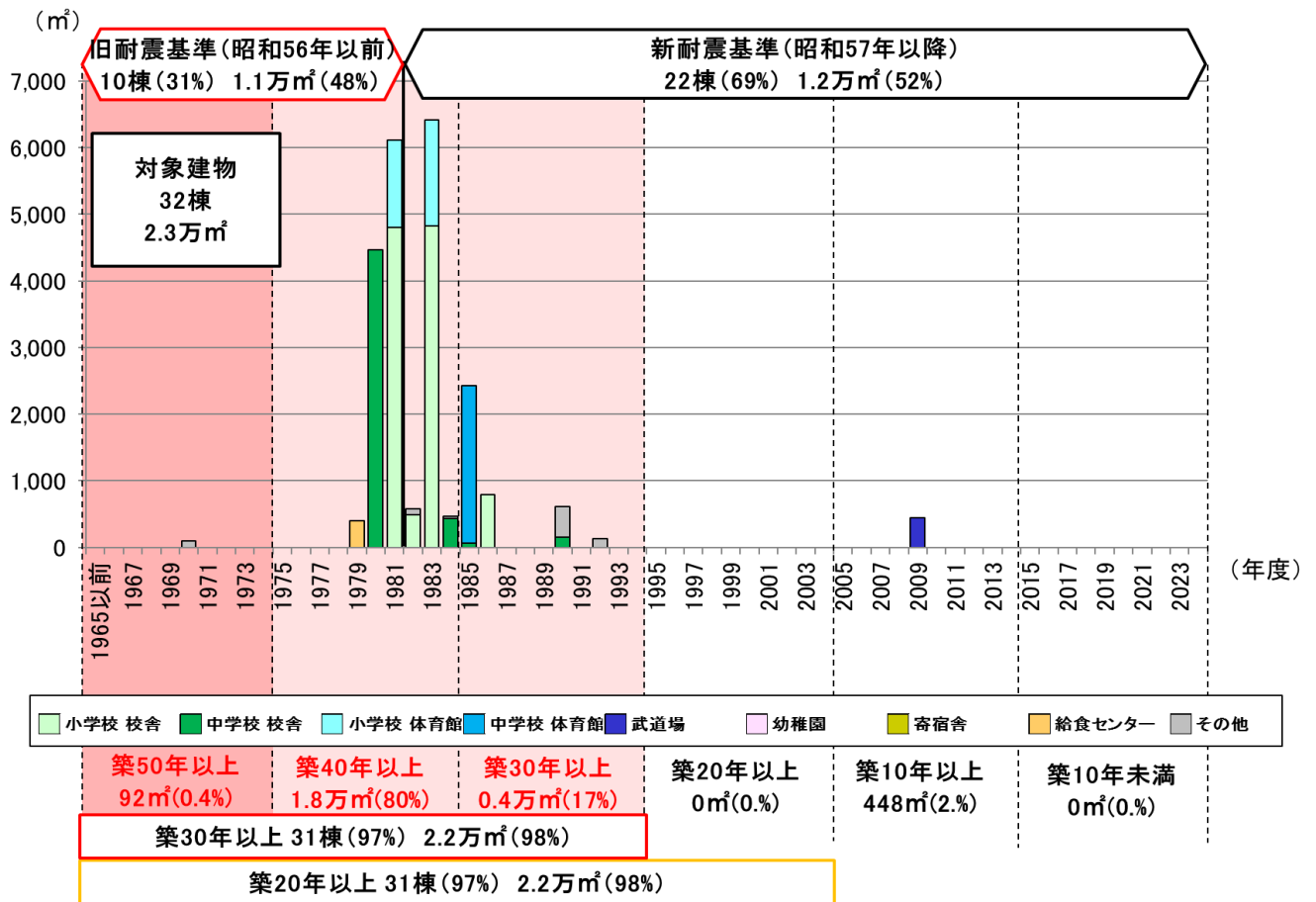
① 築年別整備状況

計画対象の施設は、築30年以上の建物が31棟、延床面積は約2.3万㎡で全体の約98%であり老朽化が進んでいます。

築50年以上の建物が2棟ありますが、いずれも中学校のプール専用付属室であり、令和5年に改修を行いました。しかしながら、今後10年以内に各学校の校舎が該当してくることから、長寿命化への取り組みが必要となっています。

なお、学校施設等については、耐震診断の実施により補強工事が必要な施設(Is値0.7未満の校舎、体育館等)は耐震化を完了していますが、学校給食共同調理場は耐震診断が未実施となっています。

築年別整備状況



② 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

構造躯体の健全性は、建物の建築年度と建設時の設計内容から耐震安全性を把握し、それを基に構造躯体の長寿命化について判定します。

新耐震基準は「長寿命化」と判定します。旧耐震の建物においては、耐震診断及び耐震工事が完了しているものは「長寿命化」と判定し、耐震診断が未実施の建物は「要調査」と判定します。また、教員住宅については、耐震基準に関わらず「改築」と判定します。

屋根・屋上及び外壁は、一級建築士等が目視で行った建築基準法第12条点検の結果を基にA、B、C、Dの4段階で評価しました。

内部仕上げ、電気設備及び機械設備は、部位の全面的な改修年からの経過年数と一級建築士等が目視で行った建築基準法第12条点検の結果や施設設備保守管理委託業者の指摘事項を基にA、B、C、Dの4段階で評価しました。

健全度の算定

①部位の評価点	
	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分	
部位	5.1
屋根・屋上	17.2
外壁	22.4
内部仕上げ	8.0
電気設備	7.3
計	60

③健全度
総和（部位の評価点×部位のコスト配分）÷ 60
※100 点にするためコスト配分の合計値で割っている。
※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

健全性・劣化状況一覧表

A : 概ね良好 C : 広範囲に劣化
B : 部分的に劣化 D : 早急に対応する必要がある

建物基本情報								劣化状況評価					
施設名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
					西暦	和暦							
田上小学校	校舎	RC	2	1,322	1983	S58	41	B	B	C	B	B	62
田上小学校	校舎	RC	3	3,446	1983	S58	41	B	B	C	B	B	62
田上小学校	給食棟	RC	1	491	1982	S57	42	B	B	C	B	B	62
田上小学校	渡り廊下	RC	1	58	1983	S58	41	B	B	C	B	B	62
田上小学校	渡り廊下	RC	1	77	1983	S58	41	B	B	C	B	B	62
田上小学校	渡り廊下	RC	1	54	1983	S58	41	B	B	C	B	B	62
田上小学校	屋内運動場	S	2	1,454	1983	S58	41	B	B	C	C	C	53
田上小学校	プール専用付属室	RC	1	24	1984	S59	40	B	B	B	C	C	66
羽生田小学校	校舎	RC	3	2,136	1981	S56	43	C	D	C	B	B	40
羽生田小学校	校舎	RC	3	2,666	1981	S56	43	C	C	C	B	B	49
羽生田小学校	給食棟	S	1	787	1986	S61	38	B	B	B	C	C	66
羽生田小学校	屋内運動場	S	2	1,309	1981	S56	43	A	C	B	C	B	62
羽生田小学校	プール専用付属室	S	1	83	1982	S57	42	C	C	C	B	C	45
田上中学校	校舎	RC	3	1,684	1980	S55	44	B	B	B	B	B	75
田上中学校	校舎	RC	3	668	1980	S55	44	B	C	B	B	B	65
田上中学校	校舎	RC	3	1,299	1980	S55	44	B	C	B	B	B	65
田上中学校	校舎	RC	2	813	1980	S55	44	B	C	B	B	B	65
田上中学校	校舎	RC	3	438	1984	S59	40	B	C	C	B	B	52
田上中学校	校舎	S	1	62	1985	S60	39	C	C	B	B	B	62
田上中学校	校舎	RC	2	150	1990	H2	34	B	C	B	B	B	65
田上中学校	渡り廊下	RC	1	25	1985	S60	39	B	B	C	B	B	62
田上中学校	渡り廊下	S	1	50	1985	S60	39	B	B	B	B	B	75
田上中学校	屋内運動場	S	2	2,068	1985	S60	39	B	B	B	B	B	75
田上中学校	クラブハウス	RC	2	221	1985	S60	39	B	B	B	-	-	75
田上中学校	武道場	S	1	448	2009	H21	15	A	A	A	A	A	100
田上中学校	プール専用付属室	S	1	46	1970	S45	54	A	A	A	A	A	100
田上中学校	プール専用付属室	S	1	46	1970	S45	54	A	A	A	B	B	94
学校給食共同調理場	調理場	RC	1	400	1979	S54	45	B	C	B	B	B	65
田上小教員住宅	教員住宅	W	1	127	1992	H4	32	B	B	C	C	C	53
羽生田小教員住宅	教員住宅	W	2	323	1990	H2	34	C	C	C	B	B	49
羽生田小教員住宅	教員住宅車庫	S	1	71	1990	H2	34	B	C	B	-	-	62
羽生田小教員住宅	教員住宅車庫	S	1	71	1990	H2	34	B	C	B	-	-	62

3 基本的な方針等

(1) 長寿命化の基本方針

日常的、定期的な点検・診断に基づく、計画的な予防保全措置の徹底により、施設の長寿命化と安全な施設環境の確保に努め、長期的な視点による計画的な改修等を行うことで、財政負担の軽減と平準化を図り、ライフサイクルコストの低減に努めます。

今後の維持管理及び更新においては、児童生徒が安全かつ円滑に施設を利用できるようにバリアフリー化や安心・安全の確保、さらに、多様な学習環境の整備や生活空間の快適化に配慮します。学校施設等は児童生徒の教育の場としてだけではなく、地域住民のコミュニティの拠点、さらには避難施設として利用するなど、役割は多岐にわたるものと考えられます。施設の老朽化状況や児童生徒数の推移等を踏まえながら、地域のニーズを考慮した機能の向上を図り施設の利活用を推進するため、学校の適正規模・適正配置については、統廃合の必要性も含め今後検討していきます。

また、社会情勢などの変化によって利用頻度が著しく低い建物については、廃止若しくは解体撤去などを検討します。

(2) 目標使用年数及び改修周期の設定

建物の目標使用年数は、学校施設の長寿命化計画策定に係る手引きを参考に 80 年とします。

これに伴い、経年劣化に伴う大規模な改造として、建築後 50 年程度経過する時期に構造躯体の保全と機能向上を含めた長寿命化改修を実施し、改修後 20 年程度経過する時期に 2 回目の大規模な改造の時期とその後の使用見込み期間の検討を行います。

また、屋上防水、外壁、受変電設備、冷暖房設備、給水設備及び排水設備等は、継続的に劣化状況を把握し、改修を実施します。

なお、大規模な改造の時期とは別に、必要に応じて個別に実施する比較的更新時期の短い設備機器や劣化の進行が著しい部分的な修繕・改修については本計画の対象外とします。

4 長寿命化の実施計画

本計画における劣化状況評価に基づき、過去の改修履歴も考慮しながら、将来方針を以下のとおりとします。

いずれの改修も大きな事業費を要するため、具体的な実施及び時期については「まちづくり財政計画」に基づき実施していきます。各施設の将来方針については以下のとおりとします。

① 学校施設

施設名	施設・建物の状況	将来方針等	
		方針	概要
田上小学校	建築後、41 年が経過しています。	維持	適正に管理を行うことで、建物の長寿命化を図ります。
羽生田小学校	建築後、43 年が経過し全体的に劣化が進行しています。	維持	施設の老朽化状況を踏まえ、適切に維持管理を行うことで、建物の長寿命化を図ります。
田上中学校	建築後、一部建物を除き 44 年が経過し全体的に劣化が進行しています。武道場に関しては、建築後 15 年が経過しています。	維持	適正に維持管理を行うことで、建物の長寿命化を図ります。 プール専用付属室は令和 5 年に改修しました。

② 学校給食共同調理場

施設名	施設・建物の状況	将来方針等	
		方針	概要
学 校 給 食 共同調理場	建築後、45 年が経過しています。	維持	耐震診断が未実施であることから、今後、診断を行った上で必要な補強工事を行います。

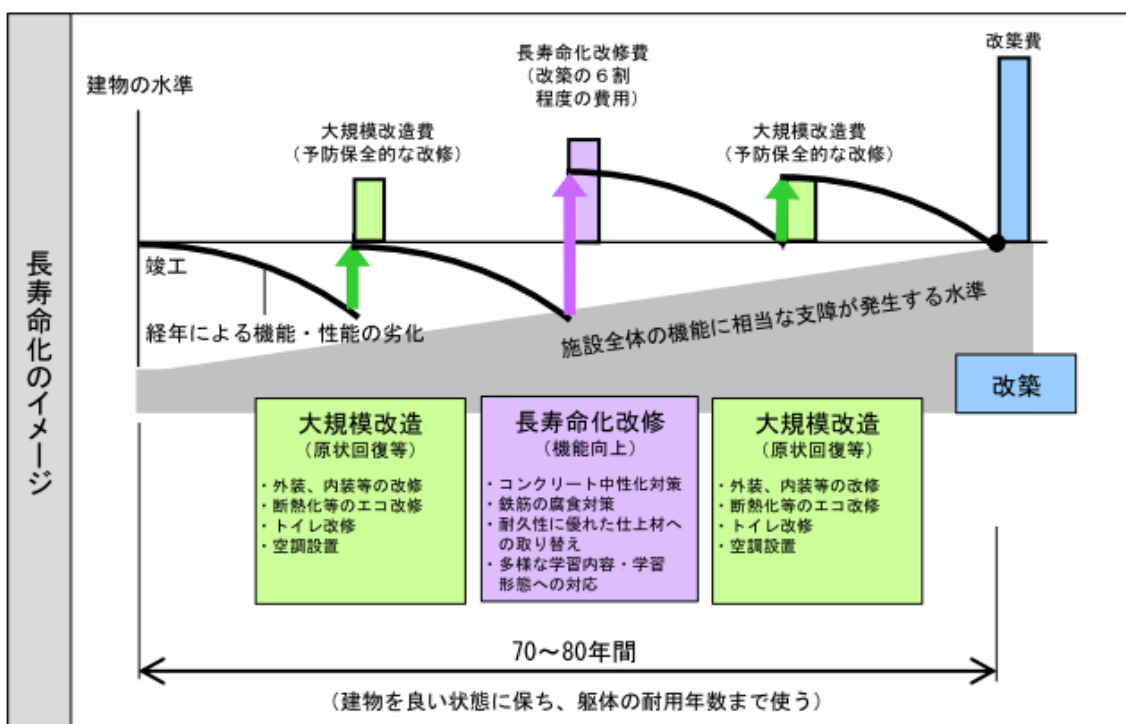
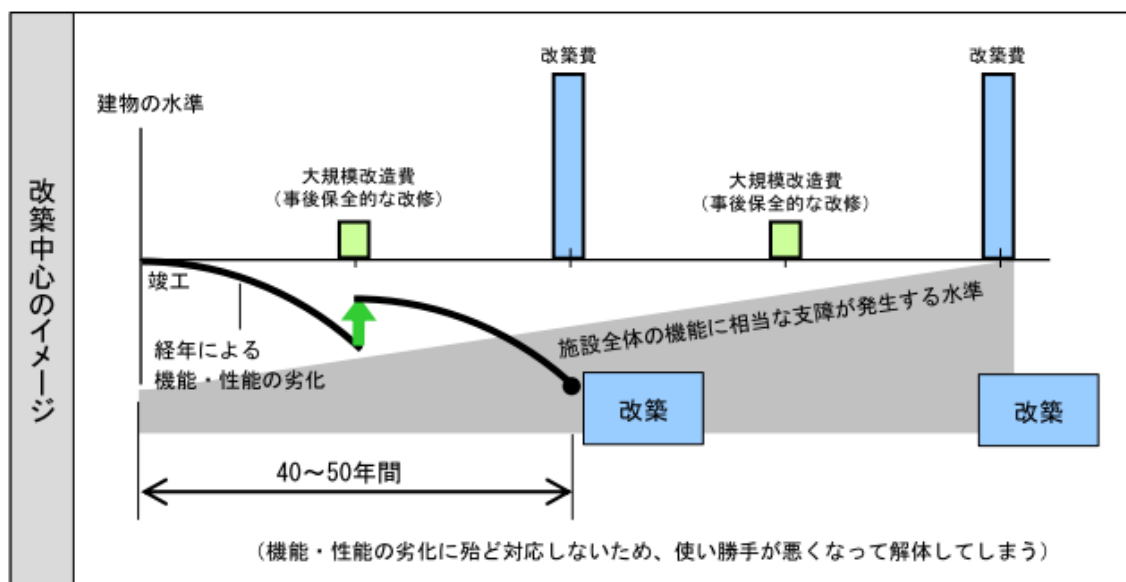
③ 教員住宅

施設名	施設・建物の状況	将来方針等	
		方針	概要
田上小学校 教 員 住 宅	建築後、32 年が経過しています。	除却	入居者もなく、学校敷地内という立地条件もあることから、廃止若しくは他用途への変更を検討します。
羽生田小学校 教 員 住 宅	建築後、34 年が経過し全体的に劣化が進行しています。	除却	現在 1 名の入居者しかいないため、入居者がいなくなった時点で廃止若しくは他用途への変更を検討します。

5 将来コストの算出結果とコスト削減効果

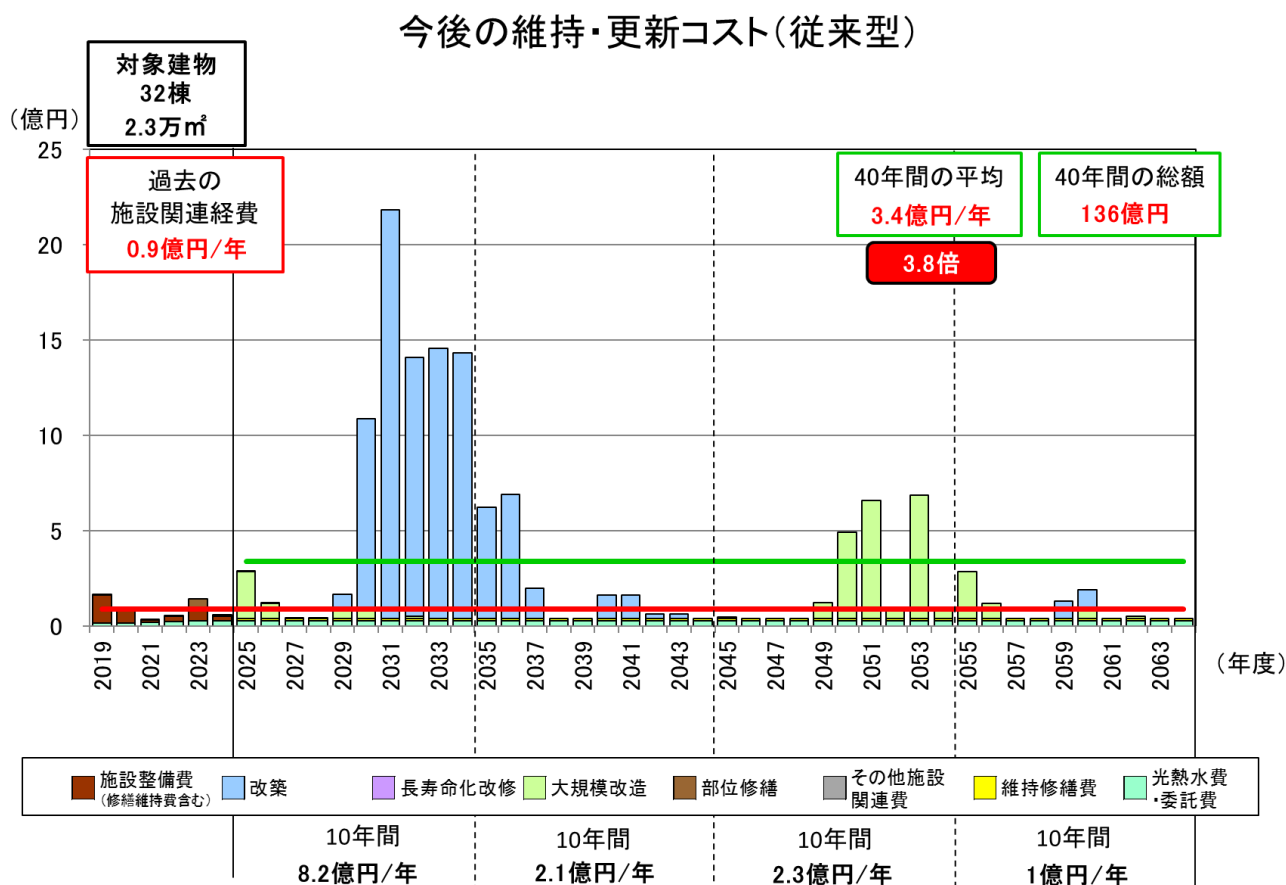
これまでの建て替え中心の整備を維持することは、町の財政状況を見ると困難であり、学校施設等の維持管理費の抑制と平準化を図り長寿命化へ転換する必要があります。

改築中心から長寿命化への転換イメージ



(1) 従来型の維持・更新コスト

従来型の算出方法による今後 40 年間の維持・更新コストの試算では、約 136 億円（年平均 3.4 億円）の費用が必要になります。これは、過去の施設関連経費（年平均 0.9 億円）の 3.8 倍に相当します。



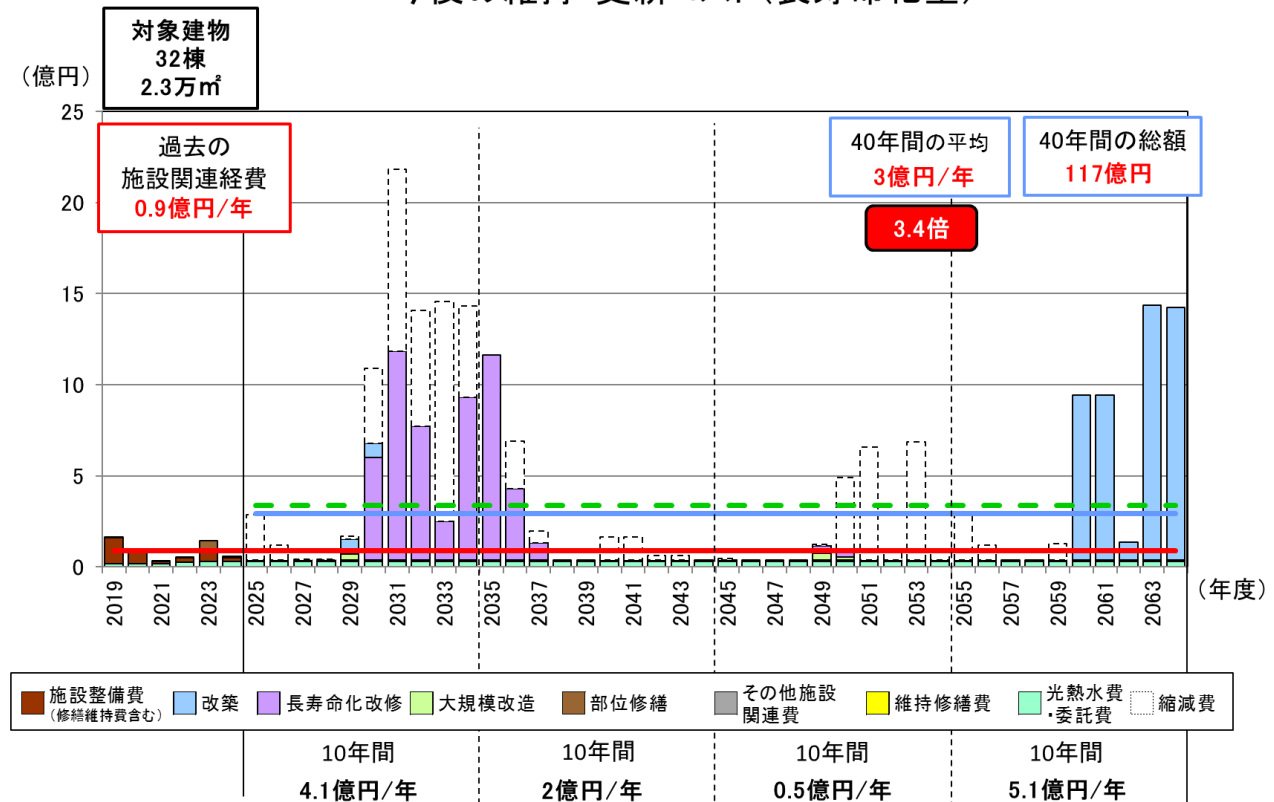
(2) 長寿命化型の維持・更新コスト

施設利用者の安全を十分配慮し、維持補修を基本とした上で、3(2) 目標使用年数及び改修周期の設定でも記載したように、経年劣化に伴う大規模な改造としては、建築後 50 年程度経過する時期に構造躯体の保全と機能向上を含めた長寿命化改修を実施し、改修後 20 年程度経過する時期に 2 回目の大規模な改造の時期とその後の使用見込み期間の検討を行うこととし、町の財政状況を勘案した中で維持・更新コストの算出を行いました。

また、今後の児童生徒数の見込みから、校舎の改築については小学校 1 校、中学校 1 校として試算いたします。併せて、温暖化による校外活動等の在り方も変容していくことが予想されるため、プール専用付属室などの施設については、コスト算出の中には含めていません。

その結果、今後 40 年間の維持・更新コストの試算では、約 117 億円（年平均 3 億円）の費用が必要になります。これは、過去の施設関連経費（年平均 0.9 億円）の 3.4 倍に相当します。

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



(3) 補助事業の活用

国庫補助事業である学校施設環境改善交付金の大規模改造事業や長寿命化改良事業、防災機能強化事業等を活用することを主とし、各施設の改修内容に即した事業メニューを選択しながら、施設整備の計画的な実施を目指します。

6 今後の維持管理・更新に係る対応

(1) 地域の状況に応じた多面的な施設の活用

児童生徒数及びまちづくりの変化に応じて柔軟な施設利用を可能にするほか、町全体の公共施設保有量の適正化に努めるため、建物の更新の際には多目的利用の観点からも学校施設等の複合化や集約化を検討し、設計計画を行います。

(2) 戦略的な改修・更新による維持管理・更新コストの平準化

全ての建物に対して長寿命化による更新時期の先延ばしを行うのではなく、個別の建物の状況や重要度に応じた優先順位や目標使用年数を設定することで、更新時期の集中を防ぎ、維持管理・更新コストの平準化を検討します。

7 フォローアップ

本計画は、学校施設等の改修や建て替えの優先順位やその内容、実施時期の目安など、これらを含む維持管理・更新コストの見通しについて示すものです。具体的な実施年度や事業費については、まちづくり財政計画等において精査するものとします。

また、本計画については事業の進捗状況、劣化状況評価などの結果を反映し、適宜見直しを行います。